

◆プログラム実施「みんなちがってみんないい ～見て！聞いて！自閉症を体験しよう！～」

自閉症の子ども達との対面、そして交流。「みんなちがってみんないい」を合言葉に、子ども達は立派なサポーターに変身した。

と き：平成19年12月9日
ところ：テクSPORT今治・その周辺
先 生：ライフサポートここはうすの皆さん
(NPO法人コミュニケーションハンディキャップ研究会)
参加者：学生スタッフ 12名
子ども 27名

1000人に1人の割合でいる“自閉症”を伴う人々。身近な障がいであるにもかかわらず、その不自由さが見た目では分かりにくい「目に見えない障がい」と言われています。今回の授業は、自閉症を伴う子ども達やそのご家族を支援している事業所「ライフサポートここはうす」(NPO法人コミュニケーションハンディキャップ研究会運営)のスタッフの皆さんが、自閉症について知って欲しいと企画しました。自閉症を伴う子ども達の感じ方や気持ち、さらに彼らの得意なところを活かしたサポートの仕方を、体験から学ぶことが目的です。

「ここはうす」の皆さんは、自閉症を伴う子ども達の余暇活動や地域イベントへの参加を支援しています。また、将来の自立的な生活に向けてスキル獲得を目指した支援を行っています。活動開始から5年を迎える中で、支援の手が家族やスタッフなど狭い範囲に留まりがちであると感じていました。「いまばり夢学校」での取り組みは、具体的な実践や連携を深める一つ。地域で子ども達がより生活しやすいようになることを目指します。

企画段階から学生スタッフは主体的に参加。特に体験コーナーづくりには智恵を出し合いました。擬似的な体験が難しい自閉症。見え方、聞こえ方、感じ方などを伝えるために、どんな方法がいいか考えました。「自分たちが自閉症を伴う子ども達のことを、まず知ることが必要だ」と、自発的に関わりを始める学生スタッフも出てくるなど、本番当日までにしっかり準備を整える姿勢には感心しました。

「自閉症って聞いたことがありますか？」
そんな問いかけから始まった授業。子ども達の中には、自閉症という言葉自体を初めて聞いた子もいたようです。午後から、自閉症を伴う6人の子ども達を迎え、サポーターになることが今日の授業の目標です。まずは、4つの体験を通して、自閉症を伴う人々が困っていることを学びました。

自閉症を伴う人たちにはたくさんの困ったことがあることを知った子ども達。ここで先生から、自閉症のお友達を手助けするアドバイス。

「得意なことをいかしてお手伝いをします！」
例えば、自閉症を伴う人は、見て理解することが得意です。そのために、色々な情報を写真や絵カードで伝えます。午前中、言語の体験で困った時、写真を見せてもらって安心したことを思い出した子ども達。これならサポートができそうです。

いよいよ自閉症を伴うお友達との対面。グループに入ってくれる子の名前や予定、様子を聞くなど保護者からの引継ぎもしっかりできました。そして、近くの店や公園へ出発です。なかなか思うように支援できない場面もありました。自閉症のお友達もいつもと違う雰囲気にはびっくりしたはず。子ども達は慣れないながらも一生懸命。中には伝えたいことを伝えるために、カードを手づくりした子もいました。

「立派なサポーターになることができたね」
先生からとてもうれしい言葉をいただきました。今日の体験をしっかり覚えておいてほしいと思います。そして、自閉症を伴う人たちへの支援の輪が広がることを願います。

◆プログラム実施「みんなちがってみんないい ～見て！聞いて！自閉症を体験しよう！～」

(プログラムの流れ)

【10:00】



「自閉症って知っていますか？」

「マンガで読んだ」「テレビで見た」と、数名の子ども達の手があがる。自閉症という言葉自体を初めて聞いた子もいたようだ。中には、この日の授業のために調べた子もいて感心。

【10:30】

ここから子ども達は6つのグループに分かれて行動。まずは、自閉症を伴う人々をサポートするために、困っていることについて体験。

①聴覚コーナー



大音量の音楽が流れる中で電話番号を調べる。そして答え合わせ。

「大きな声を出しすぎて疲れた」

「うるさくてイライラした」

そんな感想が聞かれた。自閉症を伴う人たちは、大きな声も小さな声も同じように聞こえる。

「トイレに行こう」「あのお店に行くよ」

そんな大切な言葉を聞き逃してしまうかも。伝える工夫が必要だ。

②言語コーナー



「ウニゲーサビラー??？」

何を言っているかわからず混乱する子ども達。身振りや表情で理解しようと懸命だ。写真を見て何をお願いされていたのか分かって安心。視覚情報はみんなが共通に理解しやすいツールだ。

③視覚コーナー



細い筒をのぞいているように見えている自閉症を伴う人たち。横断歩道を渡る時、順番待ちで並ぶ時、様々な場面で手助けが必要かもしれない。

④手指操作コーナー



手先が不器用だったり、逆に器用だったりする人もいと聞きびっくり。かばん、財布からの出し入れに困っていたら手助けしてあげたい。

◆プログラム実施「みんなちがってみんないい ～見て！聞いて！自閉症を体験しよう！～」

【11:30】



「歩いていると人とぶつかった」
「宇宙語みたい」
「言葉が分からなくても絵や身振りで分かる」
「細かい作業に時間がかかる」
体験を通して分かった自閉症を伴う人たちの困ったことをカードに書いて発表。

【12:40】



「サッカーが得意な人？図工が苦手な人？
得意なことと苦手なことは人それぞれだね！」
「自閉症のお友達が得意なことをいかしてサポートしてあげてね」
先生からのメッセージに聞き入る子ども達。

★見て理解することが得意

午前中、言語の体験で困った時、写真を見せられて安心してことを思い出した子ども達。これならサポートができそうです。

★はっきり！きっちり！

「〇〇だよ」「△△しようね」と短い言葉で少しずつ伝えるコツを聞く。

★予定が分かっていると安心

前日に決めているスケジュールを確認。
スケジュール通り順番にできる真面目さは、自閉症を伴う人の特技だ。

【13:40】



保護者の方、先生からスケジュールや支援グッズの説明を受ける。緊張感が高まる。

【14:00】

6人の自閉症を伴うお友達のお出かけをサポート。グループの中で、サポート役をする「子ども係」と、保護者の方へお出かけの様子を伝える「記録係」に分かれ出発。



なかなかお母さんと離れてくれなかったり、椅子から動いてくれなかったり、戸惑うことも。



子ども達はなれない手つきでカードをめくる。「こんなカードも必要」と、新しい手づくりカードを追加してあげる子どもがいることにはびっくり。

◆プログラム実施「みんなちがってみんないい ～見て！聞いて！自閉症を体験しよう！～」



自閉症を伴うお友達も、いつもと違う雰囲気にも最初はびっくり。慣れてくるといつものペースで遊んだり、いつもと違うメニューに挑戦したり、新しい一面も見せてくれた。

【16:00】



お友達が自分でできたこと、支援があればできたことを保護者に伝える。その表情は立派なサポーター役だ。

【16:30】



「ボクできるよ表」はみんなの感想でいっぱいになった。出かける前より一回り成長した様子。

(子ども達の声)

- ・自閉症の人たちは「目で理解することが得意」で、絵などを見せてあげることが大切なんだと分かった。
- ・自閉症の子と触れ合えてよかった。サポーターって大変だと思った。
- ・自閉症の子が私たちに何を伝えようとしているのか、一生懸命理解するのは大変だった。一緒に遊んだり、歩いたりするのは楽しかった。
- ・友達が一人増えた。

(学生スタッフの声)

- ・先生が親切に説明してくれて、自閉症のことがよく分かった。子ども達の方が騒がしくて大変だった。
- ・いつもより子ども達がお兄さん、お姉さんに見えた。
- ・午前中はグループの子ども達が好き勝手に行動していたが、協力してくれる自閉症の子ども達が来てから、一人一人が自分にできることを手伝って、いいお兄さん、お姉さんをしていた。
- ・自閉症の子ども達と一緒に過ごせて楽しかった。仲良くなれてよかったと思う。

(先生の声)

自閉症を伴う子ども達と過ごす中で、たくさんの「できること」を見つけてくれてうれしい。違いがあること、そして、その違いを理解し、工夫すれば、できることが広がることを覚えておいて欲しい。今日、みんなは立派なサポーターになっていた。上手に見守りができたり、新しいカードをつくったりしてくれて本当にうれしかった。自閉症を伴うお友達も、いつもと違う雰囲気の中で楽しく過ごせたと思う。

